

# 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



No.20  
2024.5.1

## ごあいさつ

院長補佐 前田 卓哉

新緑が目に見鮮やかな季節となりましたが、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

大学病院中央検査部では、積年の悲願であった検体検査部門の移転・統合計画がこの5月に完了しました。これまで、院内に分散していた中央検査部検体検査部門および輸血・細胞移植部は基礎医学棟2階に集約され、新たな検査室となり運営を開始いたしました。あわせて、大型の測定装置が刷新され、検査精度の向上とともに、時代のニーズに即したサービスの提供が可能となりました。

昨今、医師の働き方改革に基づく臨床検査技師の職域拡大のもと、我々が働く職場は広がりました。今後は、他職種との協力体制を強化し、地域医療機関との連携を深めることで、安心・安全な地域医療の実現に努力する所存でございます。お気づきのことがございましたら、いつでもご連絡ください。

末筆ながら、一層のご隆盛を衷心よりお祈り申し上げます。引き続きご指導よろしくお願い申し上げます。

※前田院長補佐（写真中央）と外来スタッフ

## Contents

最近の知見……………	2
血液内科	
診療科のご紹介……………	2
麻酔科	
外来で活躍中の医師のご紹介……………	3
てんかんセンター・脳神経外科 産科・婦人科	
教授のご紹介……………	4
血液内科 脳神経内科・脳卒中内科 小児科 神経精神科・心療内科	
看護部から……………	6
手術看護認定看護師の活動紹介	
中央放射線部から……………	6
中央放射線部のご紹介	
地域医療連携室からのお知らせ……………	7
提携医療機関から	
狭山尚寿会病院……………	7

## 血液内科の最近の知見

血液内科の診療の特徴は、貧血や血液がん、止血血栓などの幅広い血液疾患の患者さんを診断から治療までを通して診療することであり、ジェネラリストとしての内科診療を基に血液学全般の知識を駆使して診療を行っています。

近年、抗体医薬や小分子薬の数多くの分子標的薬が開発、承認され、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、白血病の患者さんに使用されています。当科ではドラッグラグなく新薬を患者さんに提供できるように取り組んでいます。

後天性血友病や特発性血小板減少性紫斑病などの非悪性腫瘍疾患に対しても新薬の導入を素早く行っています。

また、多発性骨髄腫や特発性血小板減少性紫斑病の新薬の治験や血友病の遺伝子治療の治験を通して新薬開発にも積極的に参加しています。

血液疾患に悩んでいる患者さんのための新しい治療法の開発を目指し、希望の光を届けたいと考えています。血液疾患でお悩みの方がいらしたら是非ご相談ください。



### 開業の先生方へ医療連携のメッセージ

血液内科では最新で確実な診療を提供し、患者満足度の高い患者サービスに心がけ、医療連携を積極的に推進しております。血液疾患にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介いただければ幸いです。

血液内科 教授 照井 康仁  
外来☎：049-276-2034

## 診療科のご紹介

### ● 麻酔科 准教授 三枝 勉 (ミエダ ツトム)

麻酔科の役割としては周術期麻酔、ペインクリニック、集中治療などが挙げられます。周術期麻酔関連としては術後疼痛管理チームを発足し、麻酔科として術後疼痛管理にも積極的に関与しております。外来部門としてはペインクリニックがあります。



光線療法施行の様子

当科のペインクリニックでは、帯状疱疹後神経痛など神経障害性疼痛を中心とした慢性痛

を扱っております。高齢化社会の影響もあり、抗凝固薬や抗血小板薬の内服をしている患者さんも多く神経ブロックの適応にならない方も数多くいらっしゃいます。神経ブロックの代替療法として当科では光線療法の治療を行っています。当科にはレーザー、キセノン、近赤外線の種類3種類の光線療法器具を備えており、疼痛部位や症状に合わせて照射を行っています。神経ブロックと比較して低侵襲であり、照射時間も5～10分と短時間です。患者さんの疼痛を少しでも和らげる治療を相談しながら行っております。

### 診療部長からのメッセージ

当科は24時間365日体制で緊急手術を受け入れられる体制を構築しております。高齢化社会の影響もあり、多数の合併症をかかえている患者さんも年々増加傾向です。麻酔科医による術前診察を行っており、安全に手術ができる麻酔方法を患者さんと相談しながら診療を行っています。今後ともよろしくご依頼申し上げます。

麻酔科 診療部長 三枝 勉  
外来☎：049-276-1306

● てんかんセンター・脳神経外科 講師 平田 幸子 (ヒラタ サチコ)

てんかんセンター・脳神経外科では、数種類の抗てんかん薬を用いても、発作が治まらない“薬剤抵抗性てんかん”の患者さんに対する治療を専門としています。中には、薬剤再調整により発作が抑制できる場合もありますが、様々な検査・治療を経ても、てんかん



発作が治まらない場合には、てんかん外科治療について検討します。

治療法は、患者さんの発作、てんかん診断、合併症、生活などあらゆる側面を考慮して、オーダーメイドに選択します。例えば、限局したてんかん焦点が特定できた患者さんには、焦点切除術で高い発作消失率が期待できます。ヘッドギアを使用しないと怪我を繰り返すような小児患者さんには、脳梁への手術で発作がかなり改善します。これらの手術が行えない患者さんにも、最近ではペースメーカーのような植え込み式の「迷走神経刺激装置」が選択肢になります。お困りの患者さんがいらっしゃる先生は、お気軽にご相談いただければ幸いです。

## 外来で活躍中の 医師のご紹介

● 産科・婦人科 准教授 田丸 俊輔 (タマル シュンスケ)

近隣地域の医療機関の皆様、日頃より病診連携にご協力くださり有難うございます。私は、2011年4月より埼玉医科大学産科・婦人科で仕事をさせていただき、特に胎児診断や合併症妊娠の管理などの産科・周産期医療を専門としております。

産科では、妊産婦さんの診断や管理について近隣の先生方が少しでもお困りの事がございましたら、妊娠初期・中期・後期の時期によらず、いつでもご相談いただける体制を整えております。特に胎児先天性心疾患に関しては、院内のみならず埼玉医科大学国際医療センターの小児心臓科と、児の出生前からチームを組み対応しています。また、合併症のある方が妊娠を希望される場合には、妊娠前からの健康管理に関するご相談にも対応しているほか、妊娠中は関連する診療科と連携を密に取り、最善の治療を行えるよう努めて

おります。どんな患者さんに関してもお気軽にご相談、ご紹介いただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



● **血液内科 教授 高久 智生 (タカク トモイク)**

埼玉医科大学近隣の診療機関の皆様、このたび埼玉医科大学病院血液内科教授を拜命致しました高久智生（たかくともいく）と申します。様々な血液疾患の中でも特に慢性骨髄性白血病を専門とし、多くの患者さんの診療と基礎研究に従事して参りました。慢性骨髄



性白血病は予後不良な疾患でしたが、2000年に第1世代のチロシンキナーゼ阻害剤であるイマチニブ<sup>®</sup>が開発されて以降、多くの患者さんで健常の方と同じ生命予後が期待できる疾患となっております。しかし、6つの薬剤が選択可能となった現状においても、診断から治療まで全て外来で完結する一方で治療を中止後も再発しない、無治療寛解の維持が可能な患者さんは20～30%程度にとどまっております。このため、長期の治療に伴う合併症や、高額な薬剤費負担など多くの課題が残されており、これらの問題を解決するためには、他のがんと同様に早期発見と早期治療が重要です。血液検査で白血球が高値の場合には一度ご相談ください。

**教授のご紹介**

● **脳神経内科・脳卒中内科 教授 大山 彦光 (オオヤマ ゲンコウ)**

2024年4月1日より大学病院脳神経内科・脳卒中内科の教授として着任いたしました大山彦光です。2002年に本学卒業後、順天堂大学でパーキンソン病などの運動障害・不随意運動疾患を中心に診療・研究を行ってきました。パーキンソン病は、進行にあわせて適切なタイミングで適切な治療を行うことで患者さんの生活の質を維持できます。内服治療でコントロール不十分な場合は、デバイス補助治療として、脳深部刺激療法とポンプ治療（経腸持続療法と持続皮下注療法）があります。痙性斜頸、書痙、眼瞼痙攣などのジストニアに対しては、ボツリヌス療法が奏功します。その他、振戦、チック障害・トゥレット症候群、遅発性ジスキネジアなどでは個別に治療が異なります。特殊な治療では専門家の枠を超えた集学的なチームアプローチが重

要になりますので、院内および地域の連携を深め、埼玉県西部の地域医療に貢献していただけるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



● **小児科 教授 板澤 寿子 (イタザワ トシコ)**

平素より、地域の医療機関の皆様には患者さんをご紹介いただき、また、逆紹介の形で診療をお引き受けいただくなど、大変お世話になっております。私は2020年4月より埼玉医科大学小児科にて診療させていただき、2024年4月に教授を拝命いたしました。

2023年4月、「こども家庭庁」が発足し、「こども基本法」が施行されました。スローガンは「こどもまんなか」。なんて素敵な言葉でしょう。すべての子どもたちが健やかに成長できるよう、「子どもの総合医」である小児科医として小児保健・小児医療に貢献していきたいと思っております。また、私の専門は、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患です。質の高い医療の提



供を目指し、患児と家族に寄り添った包括的な診療を心がけてまいります。地域医療を担う皆様に信頼されるよう努力してまいりますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

## 教授のご紹介

● **神経精神科・心療内科 教授 松岡 孝裕 (マツオカ タカヒロ)**

2024年4月1日付で埼玉医科大学 神経精神科・心療内科教授を拝命いたしました。当科は1.精神科救急、2.気分障害、3.てんかん、4.児童青年期(神経発達症等)、5.老年期・認知症の5領域を診療の5本柱としています。私自身は、いわゆる「スーパー救急病棟」(精神科救急入院料算定病棟)の立ち上げに初動から関与し、実診療の傍ら体制整備に注力してまいりました。一方、近年では青年～成人期の神経発達症に注目し、神経生理学的研究の傍ら実診療にも注力し、これを一般外来でも展開できるよう体制・資材の整備を進めてまいりました。特定機能病院として、これら地域医療機関で対応しづらい領域に積極的に対応しつつ、これらに対応できる医師の育成にも取り組みながら、診断や治療方針を整えたうえで地域医療機関に再びお願

いをしていく、そのような活動にいっそう力を注いでまいりたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



## ● 看護部から

### 手術看護認定看護師の活動紹介

中央手術部では、夜間休日問わず手術を受け入れており、年間約6000件行っています。医療の進歩や高度化に伴い、入院期間が短縮され低侵襲手術も増えており、皆様の生活に合わせた『日帰り手術』にも取り組んでいます。

『手術』は人生において一大イベントです。そのイベントには大きな希望だけでなく、様々な不安やリスクを伴います。しかし、医療の進歩に伴い、手術のための入院は前日であることも多く、医療者に相談する機会が限られています。その為、手術看護認定看護師として麻酔科外来で、術前看護面談を

行っています。抱えている不安を表出して頂き、適切な情報を提供することで軽減に努め、安心して手術に臨めるように支援しております。

多い不安の一つとして、手術後の痛みがあります。痛みは我慢する必要はありません。痛みを我慢することで、食欲不振や睡眠不足に繋がり、回復に必要な力が発揮されません。その為、痛みは我慢しないように説明しております。手術部には、術後疼痛管理チームもあり病棟と連携し疼痛軽減にも努めています。これからも、患者さんの不安を汲みとり、積極的に手術へ臨めるように多職種と連携して、安心・安全な手術を目指して参ります。



術後疼痛管理チーム

手術看護認定看護師  
川村 日輪



## ● 中央放射線部から

### 中央放射線部の紹介

中央放射線部は、診療放射線技師56名体制で、一般撮影、透視検査、骨密度測定、CT、MRI、血管造影、核医学、放射線治療を主に担当しており、日々業務を行っています。地域医療連携では、主にカルナシステムを利用したCT、MRI、核医学の検査を行っています。地域の医療機関でも最先端の診断技術が提供されるとともに、患者さんには安心して検査や治療を受けて頂ける環境を整備しております。

特に依頼の多い、MRI検査（強力な磁場を使用して画像化）について紹介します。当院には4台のMRI装置が稼働しています。検査内容は、頭部以外にも全身の骨や関節、臓器が撮像可能であり、それぞれの専用コイルがあります。そのため腱板損傷や骨折、炎症性の小さな病変もより鮮明で詳細に画像化することが可能となります。

最近、人工知能技術を用いた自動撮像ポジショニング支援システムが導入され、検査の再現性と効率化が向上しています。また高画質を担保しつつ高

速に撮像が可能となり、以前より検査時間による患者さんの負担が低減されています。なお閉所恐怖症や不安のある方には、事前に申し出いただければ可能な限り対応させていただきます。何より患者さんに安心して検査を受けて頂けるよう、スタッフ一同努めていきます。

中央放射線部主任 紀陸 剛志



中央放射線部スタッフ一同

## 地域医療連携室からのお知らせ

### ● 提携医療機関・登録医制度及びインターネット予約（カルナ予約）について

#### 提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大学病院と地域の医療機関とで、患者さんに一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療提携を図ります。

#### インターネット予約（カルナ予約）

インターネット（カルナ予約）にて、CT検査、MRI検査、アイソトープ検査、心エコー検査、腹部エコー検査などの検査及び診療科（一部除く）の予約が取得できます。患者情報（診療情報提供含む）を入力していただくことで、受診日の予約ができます。紹介患者さんは受診日に初診受付に寄らずに、直接診療科又は検査受付にてお待ちいただけます。なお、提携医療機関（登録医）に申し込まれた医療機関のみがシステムの利用条件になります。

【詳しくは [当院ホームページ「医療機関の方へ」](#)

→「[地域医療機関との病診連携システム](#)」→「[お申し込み方法](#)」をご覧ください。】

### ● 予約センター（電話初診予約）について【予約センター：049-276-1179】

#### 予約受付時間 8:30～17:00 月曜日～土曜日（祝日・年末年始を除く）

患者さんより、電話にて初診予約の取得が出来ます。（紹介状必須）（医療機関からでも予約可、一部予約枠の無い診療科がありますので予めご了承ください。）ご紹介患者さんの受診料が決まりましたら、当院ホームページ内「予約センター（電話初診予約）」にある「電話初診予約ご案内書」をダウンロードし、紹介状と一緒にお渡し下さい。

救急患者のご紹介は直接、救急センターへご連絡ください。  
TEL：049-276-1199 FAX：049-295-8007

## 提携医療機関から

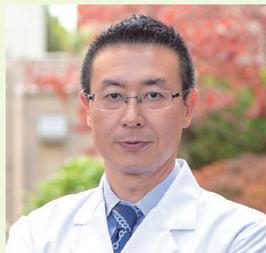
### 医療法人 尚寿会 狭山尚寿会病院 （狭山市：現 大生病院・あさひ病院）

私たち尚寿会グループは、1979年に大生病院を起源に開設以来45年間にわたり、地域の回復期から慢性期医療に尽力して参りました。2004年には隣接地に現在は認知症疾患治療センターである、あさひ病院を開設し、地域認知症医療の基盤を支えて参りました。

両病院は2024年6月より統合し、狭山尚寿会病院（706床）と名を改め新たな歴史をスタートして参ります。「信頼と愛とで築く地域医療」を理念に掲げ、疾患のみではなく、その方の人生を診る常に優しい医療（コト医療）機関であり続けたいと思っております。

貴院には、病診・連携を通して高度救急医療が必要な患者さんの受け入れや有益な医療情報の発信等でお世話になっております。

今後とも宜しく願い申し上げます。



病院長：寶積 英彦

#### 医療機関情報

回復期リハビリテーション病床	42床
地域包括ケア病床	50床
医療療養病床	206床
特殊疾患病床（内科）	55床
認知症治療病床	153床
精神療養病床	52床
特殊疾患病床（精神科）	148床

診療科目：内科・精神科・心療内科・老年精神科（認知症）・歯科・口腔外科・放射線診断科・リハビリテーション科・循環器内科・消化器内科・皮膚科・リウマチ科

外来診療時間：月曜日～金曜日

8:45～12:00（受付時間 8:30～11:30）

13:00～17:00（受付時間 13:00～16:30）

#### 問い合わせ先

04-2957-1141  
（大生病院代表電話）

#### 大生病院ホームページ

<https://taisei-hosp.jp/>

#### あさひ病院ホームページ

<https://asahi-hosp.jp/>



## 埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる  
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長  
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

## 埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

## 埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

## 病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

## 患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

## 小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

## 連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199  
地域医療連携室 : 049-276-1876  
予約センター(外来初診予約) : 049-276-1179

医療福祉相談室(退院調整) : 049-276-2119  
入退院・患者支援室 : 049-276-1484  
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



## 埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース(20号)

発行 : 埼玉医科大学病院  
発行責任者 : 篠塚 望  
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室  
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦  
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室  
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38  
発行日 : 2024年5月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。